

ソーシャリー・エンゲイジド・アート ダイアログ・シリーズ

アーティストは自然・環境・気候危機といかに向き合っているか？

アート＆ソサイエティ研究センターは2014年以降、社会的課題に取り組むソーシャリー・エンゲイジド・アートについての調査、研究、出版、展覧会や研究会の開催、アーティスト支援やプロジェクトの実践を継続しています。今回のダイアログ・シリーズでは、自然、環境、気象変動に関心をもつアーティストが、地球環境における危急の課題にいかに向き合い、自らの創作活動との関わりをどのように捉えているか、生の声で聞き、聴講者と共にディスカッションします。

VOL.1

“non-visible”

食や植物をテーマとして自然と人間との関係性を紐解く活動をおこなっている岩間朝子氏に、ご自身のこれまでの活動と自然や環境への想いをお聞きます。

登壇者：岩間朝子

開催日時：2021年9月16日[木] 18:30～20:00

定員：30名

参加費：無料

会場：ZOOMによるオンライン開催

申し込み・お問い合わせ：info@art-society.com

主催：特定非営利活動法人アート＆ソサイエティ研究センター

協力：株式会社ブックエンド（環境総合誌 BIOCITY）

Socially Engaged Art Dialogue Series



岩間朝子 | IWAMA Asako

略歴：1975年東京生まれ。ベルリン（ドイツ）と東京をベースに活動。料理人としてのバックグラウンドをもつ岩間は、食べるという行為の社会的側面について共に考えるための実験的なワークショップやフィールド・トリップなどを行ってきた。最近の活動では、自然の諸要素と、身体の物質性あるいは主観性との関係の歴史的、技術的な変容を、型を取る、写す、採取するといった身体的関与を取り入れた制作を通じて考察を試みている。

Studio Olafur Eliasson（ベルリン）併設の食堂 The Kitchen の立ち上げ・運営にコックとして携わり（2005-15年）、『The Kitchen』（2013年）を共同編集。Jan Van Eyck Academy（オランダ、マーストリヒト）にて滞在制作（2019-20）。展覧会に、建築・デザイン イスタンブールビエンナーレ 5（2021）、ヨコハマトリエンナーレ 2020 AFTERGLOW、東京都現代美術館（2020）、アーツ前橋（2017）、Den Frie Museum（コペンハーゲン）、Haus der Kulturen Der Welt（ベルリン）、Museum of Contemporary Art Leipzig（ライプツィヒ）。